

コウダイケアサービス(神戸市)

採算ライン20人突破へ、地域でのサービス周知に努める



管理者の中澤有紀さん(左)と毎田糸美社長

神戸市で2カ所の定期巡回サービスを運営する「コウダイケアサービス」は、本社のある中央区で訪問看護との一体型、隣接する兵庫区では他の訪問看護事業所との連携型の事業所を置き、地域展開型でサービス提供する。

「まず何よりも、ケアマネジャー、ご利用者の定期巡回サービスに対する理解がまだ十分でないことが大きな課題」と毎田社長。「多くの居宅介護支援事業所が訪問介護を併設する中で、中重度の利用者をいかに獲得するか、そして身体介護の利用へいかに繋びつけるかといふことに縛られてしまい、定期巡回による支援が望ましい利用者でも、なかなかプランに位置づけられない」と話す。定期巡回は1回のサービスが短時間ため、滞在型の訪問介護に比べてサービスが不十分なのではないかと勘違いされていることも少なくないという。

しかし、「頻回に訪問することも少なくて、見守りや食事／排泄介助、体位変換／環境整備など、様々な生活場面に幅広く適宜対応できる」と同社コールセンター管

理者で看護師の中澤有紀さん。「新規利用者や退院直後の方などでは、まずは定期巡回を利用し、利用者の平均要介護度は3・5程度で推移。「要介護1、2で認知症のある方で、定期巡回が食事提供と服薬確認をする

など、定期巡回を長期に渡って利用する人が少ないため、利用者は常に増減を繰り返している。そのため、採算ラインと捉える20人を超える利用者を確保するのに苦労している状況だ。最近では、利用者は11人前後で推移し、総合マネジメント体制強化加算、サービス提供体制強化加算、緊急時訪問看護加算などを算定した上で、月210万円ほどの売上となっている。

利用者の平均要介護度は3・5程度で推移。「要介護1、2のP.R.に努める。「地域で定期巡回サービスの理解が進み、利用者とのマッチングが適切に行われるようになって初めて、サービスが普及していくので、これが」と毎田社長は語った。

地域の他の訪問介護事業所に定期巡回サービスの一部を委託したことときっかけに、他社ケアマネから定期巡回の利用につながる動きも少しずつ出てきた。退院直後や終末期のみならず、期間の利用が比較的多かったり、利用開始から間もなく入院する

1カ月間のサービス提供内訳(回)

	定期訪問	随時対応
トイレ介助	174	25
Pトイレ介助	1	0
尿器介助	28	0
オムツ交換	417	13
食事介助	33	1
水分補給	324	11
配下膳	274	7
後片付け	273	14
服薬介助	335	5
体位変換	150	9
移乗介助	182	27
安否確認	596	46
見守り	594	44

しっかり支えられる」と中澤さんは話す。

神戸市では現在、各区でのべ

10法人・11事業所が定期巡回

サービスに参入しており、それ

らが一体となって定期巡回の周

知などを進める協議会が立ち上

がった。地域の居宅介護支援事